



ニイハオ 你好

2



か こう 嘉興市

▷嘉興市の工場群



活発な産業活動

◇工業

嘉興市と富士市の共通点の一つは、両市とも工業が盛んな点です。

嘉興市にある工業企業数は2,684、その労働者は33万3,000人で、1984年の総生産額32.6億元（日本円で約1400億円）は、浙江省の中で第3位です。

工業の中心は軽工業で、1,832企業に19万7,000人が働いています。生産額は、22.11億元（約940億円）で、工業生産額の67.76%を占めています。

このほか、機械・冶金・化学工業・電子・建材等の工業も発展しています。

各種工業の総生産価格の割合は、紡績26.2%、機械22.3%、食品13.9%、化学11.2%、建材10.2%、製紙2.8%となっています。

◇農業

嘉興市は自然条件にすぐれ、食糧の産出が盛んです。

農業総生産価格は20.91億元（約890億円）、稲作が主で、油菜・養蚕・豆类・蔬菜などもつくられています。農業に従事する人は111万9,300人です。



八王子神社

曾比奈の 八王子神社

二月二十一日は大洲地区曾比奈の八王子神社のお祭りです。八王子神社にはいろいろな言い伝えがありますが、今回はその中から、金の仏像のお話です。

村人を幸せにする神様

昔、大洲の曾比奈に牛や馬の商売をしている人がいました。

ある日、商いの帰りに八王子というところで金の仏像を買いました。そして、家の床の間に飾り、毎朝毎晩おがみしました。すると、なすことすべてがうまくいき、村一番の金持ちになりました。

ある晩、夢の中にその金仏が現れて「自分だけ金持ちになるのはよくない。みんなが幸せになれるようにしなさい」と戒めました。

そこで、八つの釜を重ねて仏像を入れ、上から釜でふたをして地中に埋めました。その上にモミの木を植え、村の神様として社殿を建てて八王子神社と名付けました。

それから、村中の作物もよく実り、みんなの暮らしも楽になりました。

突然の天変地異

あるとき、よその村人が「そんな

なばかなことがあるか」と、八王子神社の前を馬に乗っていばつて通りました。

すると、突然大地がグラグラと揺れ、突風が吹き、黒雲がにわか天をおおって、雷が鳴り、大雨が降りました。馬は驚いて暴れ、村人は馬から落ちて死んでしまいました。人々は、死がいを馬と一緒に神社の西に埋め、馬頭観音としてまつりました。

疱瘡神とも呼ばれたよ

八王子本町の小野栄さん（七十五歳）は、「昔は、神社に湧く水が疱瘡に効くといわれ、疱瘡神さんとも呼ばれていました。二月二十一日のお祭りでは、青年が演技をし、そりやあにぎやかなものでした。今は、昔に比べると寂しいけど、伝統は守ってもらいたいね。」と語ってくれました。



▷小野さん

地名の由来

よ だ ばし
依 田 橋
(今泉)



昔、依田金兵衛が開拓したので依田村と呼ばれていたと言われています。慶長六年（一六〇一）、東海道が依田村の南端で和田川に橋をかけ、依田橋と呼びました。その後、「依田」は「よた」に通じるからというので依田橋村に改めたということです。それは寛永二十年（一六四三）依田橋村が、今泉村から分離して、吉原宿の地方村になった前後のことだったでしょう。

こちら編集室

編集室は市庁舎の八階北側にあります。ここは、富士山を頂上からすそ野まで見渡せる特等席。頭に白い雪をのせ、でんと構えた冬の富士には、心が洗われる思いがします。忙しい日々を追われ、「富士山のことなんか……」と言う人もあるかもしれませんが、時には「富士山」がいいものですよ。